

井手町 議会だより

第31号

平成22年(2010年)
11月発行

発行 井手町議会

編集 議会広報編集委員会

京都府綴喜郡井手町井手南玉水67

☎ 0774-82-6172 (直通)

<http://www.town.ide.kyoto.jp/>



全国からの参加者を迎えて開かれた「川柳の祭典」プレ大会



会場で披露されたおかげ踊り

も く じ

- 9月議会で決まったこと 2P
- 町政を問う 一般質問 3～11P
- 議員活動報告・研修報告 12～13P
- サークル紹介・編集後記 14P

9月議会で 決まったこと

3保育園に子ども対応型

AEDが設置されます

中学3年生を対象に

子宮頸がん予防ワクチン接種

改正した条例

● 消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

● 児童扶養手当法の改正により、父子家庭にも児童扶養手当が支給されることによる改正です。

(賛成全員)

町道路線認定

● 町道の路線認定

路線名 町道44・16号線
起点

井手梅ノ木原25・1

終点

井手梅ノ木原25・1

経過地

町道44・13号線連絡道路

(賛成全員)

平成22年度補正予算

● 一般会計(第2回)

町の3保育園に子ども

対応型AEDの設置をするため132万3千円、

読書環境の改善・充実のために、絵本等の購入に

100万円、来年度からの一時保育実施のため、

玉川保育園改修工事に

870万円、中学3年生を対象に子宮頸がん予防

ワクチンの接種助成に

121万7千円、町内の住宅用太陽光発電システ

ムの設置補助に200万円、しだれ桜の延命保護

事業への補助に94万円、

消防団員の退職報償金に

579万6千円、豪雨に

より発生した町道35号線

他の災害復旧費に230

0万円などが主な内容で、

総額5271万2千円を

追加するものです。

(賛成全員)

● 国民健康保険

特別会計(第1回)

平成21年度の精算見込

み等によるもので、66

7万3千円を追加するも

のです。

(賛成全員)

● 老人保健特別会計

(第1回)

平成21年度の精算見込

みによるもので、33万6

千円を追加するものです。

(賛成全員)

● 介護保険特別会計

(第1回)

平成21年度の精算見込

みによるもので、234

9万1千円を追加するも

のです。

(賛成全員)

同意案件

● 工事請負契約について

契約の対象

多賀小学校

プール改築

工事

契約金額

8730万

6450円

履行期間

完成年月日

平成23年

2月28日

契約の相手方

京都府綴喜郡井手町

井手梅ノ木原72・1

株式会社 巖建設工業

代表取締役 木村土生

契約方法

一般競争入札による契

約

(賛成全員)

● 自治功労者

小川 一 男氏



井手 柏原

(賛成全員)

町政を問う

一般質問に8人の議員が登壇

岡田 久雄 議員

- ◆ 第4次井手町総合計画の策定について
- ◆ 子宮頸がん予防ワクチン公費助成について
- ◆ 小中学校の就学援助・私立幼稚園の就園援助について
- ◆ 図書館活動の充実について
- ◆ 文化行政について

村田しんきち 議員

- ◆ 自然休養村の利用頻度と利用者数及び音響設備等の改善策について
- ◆ 鳥獣害問題について
- ◆ 環境保全条例の強化について

中 坊 陽 議員

- ◆ 井手大塚地区の土地活用について
- ◆ 道路整備計画の進捗状況について

岩 田 剛 議員

- ◆ 高齢者対策について
- ◆ 古文書類等の整備について

西 島 寛道 議員

- ◆ 3校グラウンドの整備について
- ◆ 新四郎山グラウンド整備について
- ◆ 防犯カメラの設置について

木 田 鈴美 議員

- ◆ 高齢者の所在不明問題について
- ◆ 女性の健康支援について
- ◆ 井手町共同墓地の整備について

森 田 泰雄 議員

- ◆ 高齢者の所在不明問題について
- ◆ 未収金対策について
- ◆ 多賀阪ノ下・北ノ代地区の再生対策について

谷田 みさお 議員

- ◆ 地デジ対策について
- ◆ 給食費値上げの回避について
- ◆ 井手地区墓地の整備について

お詫びと
訂正

8月に発行しました、議会だより第30号で掲載しました、国民健康保険税条例の一部を改正する条例の記事中、誤りがありましたので、訂正し、お詫び申しあげます。

広報誌には、それぞれ合計3万円の引き上げと記載しましたが、正しくは国民健康保険の基礎課税限度額が3万円、後期高齢者支援金等課税限度額が1万円の引き上げになります。

あなたも議会を傍聴しませんか

お気軽にお越し下さい

定例会は 4回

(3月・6月・9月・12月)

議会は、一般に公開され、どなたでも傍聴できます。

傍聴を希望される方は当日、傍聴席入口で受付簿に住所・氏名・年齢を記入して下さい。

井手町議会だよりは、井手町のホームページでもご覧になれます。

<http://www.town.ide.kyoto.jp/>



岡田 久雄 議員

第4次総合計画の策定は

Q 町の次の10年を見すえての第4次総合計画策定が審議会に諮問された。第3次総合計画をどのように総括し、どう第4次の計画に生かすのか。今後の具体的な取り組みとスケジュールを問う。

町長 基本構想を12月議会に提案する

A 第3次総合計画の基本方針である「豊かな自然に包まれた個性と秩序のあるまちづくり」「安全性・利便性・快適性が高く、いきいきと暮らせるまちづくり」「創造性と思いやりにあふれる人を育てるまちづくり」「明日の井手町を築く住民主体のまちづくり」の4項目に沿って総括すると、

おおむね達成できている。ただ人口1万人達成ができなかった。第4次計画の策定は、今後企画委員会では、取りまとめ、審議会にはかり、答申に基づき12月議会に基本構想を提案する予定。

基本計画は来年3月に策定する予定である。

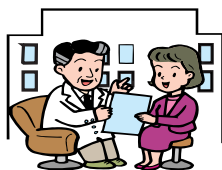
子宮頸がん予防ワクチン助成を

Q 子宮頸がん予防ワクチン接種に助成を行う自治体が増えている。近隣市町村の公費助成の取り組みはどうなっているか。本町の考えは。昨年のがん検診の無料クーポン券で受診率はどうだったか。本年の対象者数は。

民生 池田理事

中3対象に全額助成する

A 綴喜管内では、中3を対象に1市1町が全額公費助成、1市が2/3助成で1/3が自己負担と聞いている。本町では全額公費助成の予算を提案した。

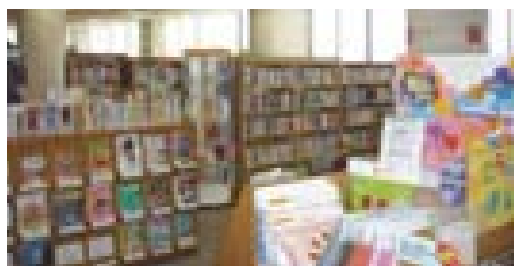


21年度 がん検診受診状況			22年度がん検診対象者数
乳がん	60人	21.05%	286人
子宮頸がん	69人	26.74%	252人

図書館活動の充実を

Q 2010年は国際読書年。読書は人生をより豊かにし、感性を磨き、想像力を豊かにするうえで欠かせない。

①図書館の年間利用者数



利用促進をはかっている図書館

21年度 利用人数		
	利用人数/日	貸出冊数/日
最大	92人	811冊
最少	18人	69冊

*小中学校の就学援助・私立幼稚園の就園援助についておよび文化行政についての質疑は省略しました。

の推移および21年度の最大・最少利用人数と貸出冊数

②国際読書年の独自の取り組み

③近隣市町村での図書館協議会の設置状況を問う。

教育 木田次長

創意工夫で利用促進はかる

A ①14年度には2万5332人の利用があったが、21年度は1万4601人。直接来館人数は減少している。

年度は保健センターに絵本や紙芝居などの読書文庫を設置する。図書館では企画展や話題性のある展示など創意工夫で利用促進をはかる。

③山城管内12市町村で図書館協議会を設置しているのは5市町で、本町は設置していない。

町の文化協会も設立され、この機会に本町が文化面でもますます発展するよう、関係者・住民が力を合わせる必要がある。

文化行事の拠点施設である自然休養村ホールの利用頻度、行事内容、利用人数を問う。

ホールのイスは座り心地が悪い。布張り、肘



様々な行事に利用されている自然休養村ホール

自然休養村ホールの改善を

村田しんきち 議員



町の文化協会も設立され、この機会に本町が文化面でもますます発展するよう、関係者・住民が力を合わせる必要がある。

文化行事の拠点施設である自然休養村ホールの利用頻度、行事内容、利用人数を問う。

ホールのイスは座り心地が悪い。布張り、肘

教育
木田次長

傷んだイスは
買い換え補充している

【A】 昨年度、ホールは130回、延べ4500人の利用があった。山吹ふれあいコンサートや文化祭、コーラスなどに利用されている。

イスは傷んだものは買い換え、補充している。

収納スペースが限られている上に、多人数の催し物も多く、軽くてコンパクトなものが必要。肘かけつきは考えていない。

音響装置は、催しの必要に応じて、専門業者に依頼して対応している。

鳥獣被害拡大に対策を

【Q】 猿害は著しく拡大している。畑・果樹を荒らすだけでなく、住宅地に侵入し、ベランダや屋根に登ってくるなどの被害もある。

まず鳥獣被害の実態を調査すべき。今後の対策をどう考えているか。

事業
中村理事

農業改良普及センターから
指導を受ける

【A】 今年には特に猿害情報に寄せられている。通報により、現場で確認、現状把握に努めている。

農作物被害防止について、府山城北農業改良普及センターなどから状況に応じた指導を受け、適切な対策をとっていきたい。

空き地・耕作放棄地の草刈指導を

【Q】 耕作放棄地や空き家、近隣住民に迷惑をかけている。花粉症・アレルギーをもたらし、マムシの危険、美観・防犯上の問題もある。



セイタカアワダチソウが茂る空き地

土地所有者に適正管理を怠らないよう注意を促したらどうか。

環境保全条例を整備強化して、環境を守るべき。

事業
中村理事

すべて改善されている

【A】 耕作放棄地・空き家・適正管理を指導し、空き地は、すでに環境保全条例の中で保全対象となっている。

来までのところすべて改善されているので、条例の改正は考えていない。



中坊 陽 議員

大塚地区の活用は

Q 井手・多賀地区の中間に位置する大塚地区は、優良農地として、整備され耕作されていたが、水田や一部の畑地以外は、多く放棄地が見受けられる。

この状況が、続けば景観にもよくなり、イノシシや猿による被害もたびたび報告されている。

上井手地区から平山地

区への町道38号線（通称合併道路）においても、道路状況が悪く、車両通行が困難な箇所もある。有効利用できる土地の少ない本町にとって、府道多賀バイパスや国道24号線も近く、工業地・住宅地・その他利用価値のある地域と思うので、総合的な土地利用計画を考へてはどうか。

事業 中村理事

利用計画は考えていない

A 本地区は、農振・農用地区域であり、一部休耕農地や山林が見られるが、おおむね農業に土

地利用されている現状である。土地利用計画は、考えていない。

道路計画の進みぐあいは

Q 本町は、幹線道路を中心に、整備が進められている。

①府道と束井手線の上井手地区から左馬付近までの拡幅工事

②町道22号線橋本橋からの南進工事と木津川市山城町の農免道路との接続工事

について現在の進みぐあいは。



竹林が生い茂る大塚地区方面

事業 中村理事

収用手続きなど進めている

A ①府道と束井手線の上井手地区から左馬付近までは、いったん河川側の拡幅を行い河川側に迂回し、23年には山側の切り土工事に着手する予定である。

②町道22号線橋本橋からの南進工事では、収用手続を進めており、周

知用看板を、収用土地付近に設置した。土地の取得完了後工事着手となる。法的手続きを進め、同時に土地所有者と任意交渉を進めている。

木津川市山城町の農免道路との接続は計画していない。



拡幅工事が進む和束井手線

高齢者を支える体制を

岩田 剛 議員



Q 本町の高齢化率は、全住民8275人中2165人、実に26・18%で、高齢化問題は、国全体でも大きな問題である。

施設の整備がおくれ、入所できない自宅待機者は、

2000年には要介護認定者は、全国では218万人だったが、9年間で、469万人と倍増した。要介護認定者の収容



利用希望が多い「いでの里」

全国で42万人にも上ると言われている。

本町にも「いでの里」

はあるが、要介護者は今後ますます増加が予想される。行政・地域が一体となつてどう対応をしていくか町長の考えを伺う。

全役場職員がヘルパー

町長

職員の参画を期待

A 高齢者にとつて、幸せは、自宅で家族とともに健康で天寿を全うできること。

本町では「健康で生きがいを持ち、住みなれた地域でいきいきと暮らせるまちづくり」を基本理念にし、高齢者保健福祉計画のもと、自発的な健康の維持・増進や、できるだけ元気で自立した生活が送れるよう介護予防の推進、介護が必要になった場合、適切な介護、福祉サービスの提供など高齢者を支える仕組みづくりに取り組んできた。

2級免許を取得し、自宅介護のサポートや町内の組織を生かして、となり組の要介護者の世話をすることで、地域のきずなを取りもどす運動を行政・地域が一体となつて進めていけないうかを伺う。

この間、急速な高齢化で増加する要介護者に必要な施設サービス提供基盤の不足、介護、福祉人材の不足、サービス利用の拡大に伴う保険料や利用料の問題もあり、本町では地域包括支援センターを中心に地域ケア会議で取り組みを進めている。今後、医療・介護・福祉関係者との連携・協働をさらに強め、高齢者を地域全体で支え、自宅に家族と共に健康で天寿を全うできる地域の実現に向けて努力したい。

そのため職員には、町

の職員・地域住民として、行政と地域をつなぐ意識をもち「住民とともに地域づくりを」とあらゆる機会に話をしている。さらに地域づくりに積極的に参画してくれることを期待している。



古文書類の整備は

Q 7月7日に町内48団体・14個人が加入して井手町文化協会が設立された。

登場する各種文献・資料の整理の重要性について質問したがその後の整理作業状況は。

9月4日に、設立記念文化講演会が、自然休養村センターで開催され、活動がスタートした。

担当部署はどこか。整理に向けた人員の配置は。いつから始めて、いつ頃完了するのか。

昨年6月議会で町史に

総務
西島理事

現在整備を進めている

A 古文書については、別室に移動し整理している。

併任職員が1名、町史関係の事務担当をしている。早く整備ができるよう対応していく。

担当課は、総務課で、

対応していく。



西島 寛道 議員

3校のグラウンド整備を

Q 井手小学校のグラウンドでは、昇降口周辺に雨天時水溜りができ、子どもたちが通行できなくなるという事態が発生している。その際、土が流されてしまい、グラウンドが荒れ果てて使用できなくなり、大変困っている。

グラウンドの水はけが悪く、近年の集中豪雨に対する対策が必要と思われる。グラウンドは学校行事はもちろん、国民文化祭や防災訓練、実際に災害が起こったときなどに活用される重要な場所でもあり、対策を立てられないか。

教育長

計画的に整備したい

A それぞれに対して、排水口が詰まることのないよう管理を適切に行い、乾燥後に凹凸ができないようにぬかるみには車両の進入を避けるなどの対応や、砂を入れてならすなどの応急措置をしてき

た。

多賀小のプール改築をもって一応の教育環境整備の目処が立つ。

今後、グラウンドの状

況を十分調査し、どのような対応ができるか検討して、順次計画的に整備していきたい。

新四郎山グラウンドの整備を

Q 町内の少年野球チームは2チームあるが、少子化の問題もある。

現在、合同練習から合併に向けての話し合いが進められている。

合併が具体的にになると選手が増え、新四郎山グラウンドは手狭になる。具体的には、現在のグラウンドは両翼55メートルしかなく、ボールがすくなくなってしまうため、グラウ

ンドの拡張とネットフェンスの増設、また駐車スペースも同時に検討を。



拡張がのぞまれる駐車スペース

教育長

ネットフェンスの増設を検討

A 新四郎山グラウン

ドについては、限られた

土地の状況であり、これ以上の拡張は困難。

ネットフェンスの増設

については、18年度に一塁側を3メートルかさ上げして8メートルにしたが、南側の外野の土手はネットフェンスがない状

況で、どのような対応が可能か今後検討していきたい。

駐車場も町有地の状況を検討し駐車台数を少しでも増やすように整備できればと考えている。

事件防止に防犯カメラを

Q 最近、車のカーナビゲーションが盗まれる事件や壁・車にスプレーで落書きされる被害が多発している。

このような事件が多発するということは、町の安全が脅かされ、今後大きな事件に発展する可能性もあると思われる。小

さな子どもが事件に巻き込まれると取り返しがつかない。

様々な対策があるが、「こどもぼっはんとつ」などのカメラ設置による防犯が有効ではないか。

住民のプライバシーを侵害しない箇所に防犯カメラを設置してはどうか。

総務 西島理事

設置箇所・効果を協議

A 以前から田辺警察署に町内の警らを要請しており、昼夜を問わず実施していただいている。

防犯カメラは、本年度

はJR山城多賀駅に設置を予定しており、今後設置箇所や効果を田辺署と協議しながら進めたい。



木田 鈴美 議員

高齢者への巡回支援を

Q 今年7月、東京都足立区で111歳の男性の白骨化遺体が見つかった。家族が死亡届を出さず、遺族共済年金を不正受給していた詐欺事件であり、一挙に社会問題化した。

市町村、各自治体の課

題は、戸籍の管理・整理などのあり方と考えられる。所在の適切な把握・確認をはじめとする高齢者の巡回支援や福祉のあり方が問われている。町の現状と今後の対策は。

民生 池田理事

今後も充実に努める

A 戸籍上の100歳

以上の高齢者は10人、そのうち町内に住所を有している4人と町外の2人は生存を確認しているが、残る4人は確認ができて

いない。

今後、その人の関係者がいないか、関連する戸籍の調査を行うとともに、法務局とも相談しながら戸籍の整理を行い、適正

子宮頸がんワクチン公費助成を

Q 日本では乳がんを抜いて子宮頸がんの発症率は一番高く、全国では年間1万5千人以上が発病し、3500人が死亡しており、近年20代から30代に増加している。

その原因は性行動を通じての感染だが、ワクチン

ン接種と定期健診をあわせて行えば、ほぼ100%予防できるとされている。国に公費による定期接種を進めるよう働きかけるとともに、町でも希望者への費用助成を検討してはどうか。

民生 池田理事

全額助成へ予算を提案

A 子宮頸がん予防ワクチンの公費による定期

接種化へむけすでに全国町村会から国に要望している。

本町も中学3年生を対象に全額を交付助成すべ

く、本定例会に予算を提案している。



井手墓地水汲み場は

Q 井手地区共同墓地の整備については3月議会でも質問した。「水汲み場の設置場の確保や管理・排水の問題もあり、なかなか難しいと考えているが、なにかよりよい方策がないか十分検討したい」との返答だったが、その後の状況は。

事業 中村理事

課題は設置場所

A 3月議会以降、現地調査などを行い検討してきた結果、現地より高い場所での水汲み場については、加圧ポンプが必要であり、雑排水についても現在の通路に排水管を埋設する必要がある。

る。

最大の課題

は設置場所の選定であり、産業厚生常任委員会の中で「議会と行政が一体となっ



あらたに水汲み場の設置がのぞまれる墓地



森田泰雄 議員

高齢者の所在は

Q 全国各地の自治体で100歳以上の高齢所
在不明者の住民票削除に
着手した。

本町には戸籍上100
歳以上の方が何人生存さ
れているか、所在はすべ
て確認されているか。

民生 池田理事

100歳以上確認済

A 本町の住民基本台
帳登録や外国人登録にお
ける100歳以上の高齢
者は4名であり、すべて
生存確認できている。

未収金の対策は

Q 町には、町民税・
固定資産税などの町税や
国民健康保険税・介護保
険税・保育料・住宅や上
水道の使用料などがある。
その税や使用料をも

って事業が行われている。
徴収には、職員が努力
しているが、多くの未収
金が残っており、住民か
らも話題になっている。

町税等については、今
年度から京都地方税機構
において督促されるが、
それぞれの未収金に対す
る今後の考えは。

総務 西島理事

厳正に対処

A 町税や国保税につ
いては京都地方税機構が
本年4月から本格的に業
務を稼動した。

9月からは催告センタ
ーを本町内に立ち上げ、
電話や文書催促業務を開
始している。滞納整理に
は納税の猶予など実態に
応じた措置をしている。

使用料等についても納
付指導や督促状の発送・
電話催促・夜間の個別徴
収などで徴収率の向上に
努める。

誠意のない悪質な滞納
者には、負担の公平性が
ら地方税機構と同様に厳
正に対処する考えである。

阪ノ下・北ノ代の再生は

Q この地区は湿田地
帯であり、機械で耕作で
きないため、昭和50年代
初めから耕作放棄地が増
え、荒廃農地が多い地域
となっている。

町の活性化のため土地
の活用をすすめるけれど
は、

ならないと「多賀バイパ
ス完成を起爆剤として地
権者の意見を聞きながら
検討する」と以前に答弁
されている。

どのように検討してい
るか。

一丁道の計画は。

事業 中村理事

地権者の意向が重要

A 法的な整備手法を
含め関係機関なども調
整してきたが、何よりも
地権者の土地利用の意向
が重要である。考えがま
とまれば整備に向けて検
討する。

一丁道(町道1号線)
の計画は、全体計画区間
のうち緊急度が高く地元
地権者などの協力を得ら
れた箇所より道路改良を
実施する。



荒廃した阪ノ下・北ノ代地域



谷田 みさお 議員

地デジ対策は

Q 11年7月アナログ放送が停波すると、しきりに広報される中で、どうすればいいかわからない方が残されている。

進捗は

③生活保護世帯、受信料全額免除世帯への、チューナーやアンテナなどの支給制度の申請状況は

況は

④住民税非課税世帯に簡易チューナー支給方針をどのように周知を図るのか

町の昨年以降の取り組みについて。

①現時点での町内の普及率は

②集合住宅と公共施設の

⑤相談会への参加状況と訪問相談活動の予定
⑥アナログ放送の完全停波延期を国に要請すべきでは

総務
西島理事

地デジ対策は国が

A 町の責務は、周知

広報や総務省説明会の会

場確保の協力のみ。住民からの町への問い合わせもほとんどない。

①総務省では、町内の普及率はわからないとのこと

②民間集合住宅はすべて完了。町営住宅は10年度で完了予定。公共施設は09年度ですべて完了

③生活保護世帯などへの簡易チューナー無償給付状況は09年で79件の申し込みがあり、09年・

10年で実施

④住民税非課税世帯全般の簡易チューナー支給は総務省から依頼があれば周知する

⑤相談会は12回開催され221名の参加。戸別訪問相談は実施されている。今後の相談会等の予定はない

⑥地デジ放送への円滑な移行に向け、国として万全を講じるよう、全国町村会としても要望している

給食援助費は

Q 町では、

長年給食費に

総額320万

円の援助が行われ、健康保

持と食育推進に大きな役割を果たしてきた。

05年の給食

援助費の決算

は203万円

に過ぎない。



おいしい給食の時間

06年から09年までの決算額は。

今年4月から、小中学校とも月額300円の値上げが行われた。

深刻な不況が続ぎ、子どもの貧困が顕在化してきた中で、子育て世代の

家計を直撃する問題だ。

値上げ前に援助を1人1食17円に限らず上乗せすることを検討されなかったのか。

援助額を執行すれば値上げの必要はなかったのでは。

教育
木田次長

中学の援助費は本町だけ

A 給食援助費の決算額は

06年190万5360円、
07年185万6876円、
08年183万3246円、
09年181万7759円。

委員会並びに教育委員会において1食17円の補助の件も含めて説明し、やむを得ないとの結論を得た。

近隣で値上げの相次ぐ中、使用食材や献立の工夫を行い、12年間据え置いたが、食材の高騰などで単価を維持することが困難になり4月から給食費を改定した。

学校給食センター運営

*井手地区墓地の整備についての質疑は省略しました。

府政懇談会

奈良線の複線化 いよいよこれから

議長 木村 武 壽

9月8日、府町村議長と山田知事をはじめ、副知事ら幹部と「明日の京都」ビジョン、「町村行財政」をテーマに懇談会をもちました。この会議では、府政に対する認識を深めるとともに、町村の当面する諸問題について懇談をしました。

井手町から、「木津川左岸の学研都市は、人口が増加しているが、右岸の地域は減少している。違いは、鉄道が複線と単線であり交通便利性に課題があることから、①JR奈良線全線複線化の早期実現、②公共事業の削減等により、土木建設業

が衰退し、疲弊した状況にあり、若い従事者がなくなる恐れがあり、災害の復興や歴史ある建築物の保存が危惧されることを考え、土木技術者の技術力の保持と育成」の2点について質問しました。

知事より、「奈良線の複線化については、今年調査をやっていることで、これからということ。地元の盛り上げ、利用を一生懸命して頂きたい。土木建設業の未来については、厳しいものがある。昨年、国の補助事業が2割削減された。府として単独事業で維持しているが限界もあるので二

つの方向で考えている。

一つは、地元貢献で

きる優良な

人を雇い、

機械を持つ

ているよう

な業者を優

遇していかなければなら

ない。災

害時に、す

ぐに持って

いる機械で

復旧してく

れる業者で

なければい

けないと思

う。

もう一つ

は、森林や



環境関係への転換の所へも応援していきたい」との考えを示されました。

奈良線の複線化は、町の発展につながるものであり大変喜ばしいことであります。また、土木建設業に従事する方へ将来の考えを示されたことは、ありがたいことであると理解しています。

産業厚生

常任委員会

委員長 岡 田 久 雄

井手地区共同墓地の管理について8月20日に委員会を招集しました。

墓地区画数は、現在

1245区画あり、使用

許可がなされていない区

画は、120区画あると

説明がありました。

あることに対しては、維持管理の問題があり、現状では、大変困難な状況であることでした。

放置墓石について

軍人墓地前に墓石が山

積みされていることに対

して質疑があり、「これ

は不法投棄で産業廃棄物

扱いと考えられる。いつ

たんきれいにしてという

意見を参考にして、検討

していく」こととなりま

した。

その他、バリアフリー

や危険箇所の問題・墓地

の移転等課題解決のため

質疑を行ないました。

水汲み場は設置に向けて

場所の選定

お墓参りの課題となっている水汲み場については、空いている墓地等を現地確認。今後、検討を進めることとなりました。

トイレの設置は

困難な状況

トイレの設置の要望が

市町村議会議員臨時セミナー

地方議会改革の研修

8月25日に、京都市市町村議会議員の研修会が京都市で開催され、木村議長はじめ9人の議員が「全国に広がる地方議会改革」をテーマに、前栗山町議会議務局長の中尾修氏より講演を受けました。

民が報告会を待っている状況です。

議会基本条例の欠かさない要素、理念は、「議会がかたまりとして不特定多数の住民と公式に話し合う機会の確保(議会報告会や意見交換会)」。

北海道にある栗山町は、財政破たんした夕張市の隣、人口1万4千人の町、全国初の議会基本条例を制定した町です。

財政難をきっかけとして、議長の呼びかけで、財政の検証を始め、それが転機となりました。

議員がグループで地域に出向き、住民に審議内容を説明し、意見を交わす議会報告会が定着しています。議会がどのようなものかを住民が理解するようになり、今や、住

民が報告会を待っている状況です。

視察研修報告

10月27、28日の2日間、人口減少対策として、長野県の宮田村と池田町に議員10人で視察研修に行きました。

1日目の宮田村では、佐賀県基山町議会議員の方が来村しておられ、本町と合同の視察研修となりました。

「人口1万人を目指したまちづくり」の取り組みとして、宮田村土地開発公社による宅地分譲や公営住宅の入居は、他市町村からの転入者も認められていることなどが人口増加の原因となっています。

子育て環境の整備は、福祉課と教育委員会です。子ども室を設置して、妊娠した時から高校卒業までを一元化し子育ての支援

をすることや保健師が新生児、乳幼児がいる全家庭への訪問などの施策を実施しています。

2日目は、池田町で「元気なまちづくり事業」について研修を行いました。

池田町では、平成18年度から自治会とともに実施する2つの事業をされています。

一つは、自治会が地域振興を自主的に取り組む活動で、緑化活動や美化施設整備、伝承文化の保存・継承・調査や地区の民話伝承などの事業、生活道路や水路等の補修を住民がするために必要な資材や機械の借上げ費用を支給する事業。

この二つに、各30万円を限度に補助されています。

もう一つは、自治会パートナー制度。

町の課長以下の全職員が担当制で各自治会のまちづくりに参画し、実情を理解することや活動の支援、課題解決に向けての協力などをされています。



サークル紹介

井手川柳会



発 足 平成22年 7月 7日
代 表 寺 島 洋 子
会 員 数 11名

句会の活動は、まずその日の題についての川柳を2句作り、その後、先生の選考、披露（結果発表）があります。自分の句が選ばれるかときどきする時間です。先月の宿題の分の披露もあります。

まだ会員が少ないので、句のよかったところや直したらいいところを説明していただけます。また、会員以外でも参加自由です。1度参加してみてください。

会員募集中

日 時 毎月第3月曜（都合で第1月曜になる場合もある）
午後1時から4時

場 所 山吹ふれあいセンター2階 集会室

参加費 1ヶ月（1回）500円

井手町文化協会



発 足 平成22年 7月 7日
代 表 小 川 俊 雄
構成団体 49団体

井手町文化協会は、平成23年度の「第26回国民文化祭井手町『川柳の祭典』」の開催を契機に、井手町で積極的に活動をされている団体を結んで、文化団体相互の情報交流や連携した活動を行い、より一層の文化振興を図ろうと、文化サークル、まちづくり団体を中心に結成されました。

本年度は9月に文化講演会を開催し、年明けには作品展示会を行う予定です。

新規加入団体も募集しております。

事務局（TEL：82-5700）までお気軽におたずねください。

編集後記

今年の夏は記録的な猛暑日が続き、その爪痕は収穫の秋の農作物にも影響が出ているようです。特に今年の米は1等米比率が、2000年以降最低のようです。

米価格の低下は、大変痛いものであり、一段と農業離れが進行する恐れがあると、懸念しております。

11月7日には国民文化祭井手町「川柳の祭典」プレ大会が実施され、地元「おかげ踊り」等が披露されました。来年の本大会に向けて着々と準備が進められています。

今後も、住民の皆様に関心される議会だよりが、発行できます様に努力してまいります。皆様のご意見・ご要望などをお聞かせください。

H・N

議会広報編集委員

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
木田 鈴美	西島 寛道	古川 昭義	村田 忠文	中坊 陽	谷田 みさお